

# なぜムスリム女性はヴェールをまとおうのか

5.0 TOP20

明:たとえ逆境にあらうとも、ムスリム女性は神に うことを びます。

目:[事代における女性](#)

より: ア イシャ ステイシ

ED5 May 2014

集日 05 May 2014



近年、小さな布切れが大きな を き起こすようになりました。ムスリム女性が に被るスカフ（ヒジャブ）に するニュースが、世界中で大々的に取り われています。フランスの公立学校はヒジャブ着用を禁止し、その他ヨ ロッパ 国は同 の法令を成立させようとしています。オ ストラリアにおいては、あるラジオ番 の司会者が を覆うヴェール（ニカブ）の 行 便局での着用の禁止を呼びかけたことにより、 と 慨を き起こしました。トルコやチュニジアのようなムスリムが大多数を占める国家でさえ、政府系の建物におけるニカブの着用を禁止しています。小さな布切れが や 争の火 となるのであれば、それを着用しなければいいだけの ではないのでしょうか？

そのような状 において、なぜムスリム女性はスカフを着用することを ぶのでしょうか？

その理由は 数に存在しますが、一つの なる答えを げるとするなら、神が信仰する女性にしてそれを とされたからと彼女たちが信じているからです。クルア ンにおいて、神は信仰する男女に し、 を下げ、慎み深い服装をするよう命じています。神は女性に し、外に表れるもの以外の美しさを目立たせないよう、そして身体をヴェ ルで覆うよう述べます（クルア ン24: 30 31）。

これらのクルア ンの 々はヒジャ ブの として知られ、それがヒジャ ブの着用を とするものであるというのがイスラ ム学者たちの 意です。サウジアラビアやカタ ルなどの一部の国においては、それを服装 定として施行しています。それらの国では女性たちが を覆い、ゆったりとした 衣を衣服の上にまとうことが求められています。しかしながら、世界中のムスリム女性たちの大半にとっては、覆うか覆わないかは 人の自由 となっています。神はムスリム女性が慎み深い服装をすること、そして公の や 族の男性以外の男性たちの前ではヒジャ ブを着けることを命じています。

英 の「スカ フ」とアラビア の「ヒジャ ブ」は同 であるとなされがちですが、ヒジャ ブはスカ フ以上のものであることに言及されなければならないでしょう。ヒジャ ブとはスカ フを含む 々な衣服に及びますが、世界中の なる服装のスタイルをも意味します。それらの多くはパキスタンのシャルワ ル カミ スや、アフガニスタンのブルカのように、文化的な 相も せますが、ムスリム女性が美を すのであれば、それはヒジャ ブをまとっているということになります。

ヒジャ ブとは逐 的にヴェ ルする、覆う、 すという意味です。イスラ ムは地域社会の 束と 理 に重きをおく宗教であることは承知の事 であり、ヒジャ ブは の男女にする 理 を保つためのものなのです。こうした理由により、ヒジャ ブという言葉 はスカ フや服装 定といった言 よりも なるものです。それは慎み深い服装と 度を指し示します。たとえば、もしムスリム女性がスカ フを身にまとっていながらも い言 を使ったりしているのであれば、彼女はヒジャ ブの条件を たしてはいないことになります。

ムスリム女性たちの大半は、神に う立派な女性として 知されるためにヒジャ ブをまといます（クルア ン33: 59）。しかしながら、 去30年 において、ヒジャ ブはイスラ ム意

の高さのシンボルとして知られるようになりました。特にイスラムの 践が抑止もしくは禁止されている国々において、多くの女性たちはヒジャブを着用することについて、イスラムの 望を示すものとして ています。

ヒジャブ禁止の施行を みる者たちは、それを性差 や抑 の象 であると言及しますが、スカフまたは な意味としてのヒジャブの着用を ぶ女性たちは、 人的な 断および独立したによってそうしているのです。彼女らは、それを 担ではなく 利であると なしています。彼女らはヒジャブを抑 の印とは なしていないのです。ヒジャブを着用する女性たちは、たびたび自分たち自身を社会の非 的なファッション文化から「解放された」のだと 明します。

ヒジャブは女性たちを知性や考え方に基づいたものではなく、性や欲情の 象として なされること、または た目や体型によって人に判断されることから解放します。消 者主の奴 ではなくなった彼女らは、ヒジャブによってメディアから押し付けられる非 的な固定概念やイメ ジに迎合する必要がなくなるからです。ヒジャブを着用する女性たちは、 慎み深い服装をして を覆い すことは、 でのセクハラを最小限に留めていることを言しています。ヒジャブによってつくり出される 慎み深いオ ラは、イスラムが女性にす高い を指し示すものなのです。

特定の家庭または文化が女性にヒジャブの着用を いているということは事 ですが、それは一般的なことではありません。クルア ンでは、宗教に 制がないということを明 に述べています (2: 256)。ヒジャブの着用を する女性たちは、 い持ちでその 断をしているわけではありません。事 、多くの女性たちは自分たちを覆い すという 断をする 、ムスリム 非ムスリム家族に わらず、大きな 立に直面しなければならないことを 言しています。世界中において、女性がヒジャブを着用するという 利のために わなければならないケ スは多数です。

ヒジャブは敬虔さの象 であるのと同 に、内面の多大な力 さ、そして逆境に耐えうる我慢 さのしるしでもあります。ヒジャブを着けている女性は、非常に目立つイスラムの告塔ともなります。ムスリム男性はいかなる社会においても容易に溶け めますが、ムスリム女性は 引きをされ、自身を覆い すという 断だけでなく、宗教における防 をもい

られるのです。それにも わらず、ヒジャ ブを着けている女性たちは、ヒジャ ブによる利点は、メディアによる偏 や一般的な 知さによって作り出される不利な立 をはるかに凌ぐのだということを します。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2770>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。